

労務 ROAD

iDeCo（イデコ）制度改正のポイント

そもそも iDeCo（イデコ）って？

- ・ iDeCo（個人型確定拠出年金）は、自分で積み立てて将来の年金をつくる制度です。
- ・ 毎月の掛金を自分で決め、投資信託などで運用し、60歳以降に受け取ります。
- ・ 国の年金（国民年金・厚生年金）に上乗せできる「自分で作る年金」です。

【うれしい3つの税金メリット】

1. 掛金が「全額所得控除」になり、所得税・住民税が安くなる
2. 運用中の利益は「非課税」
3. 受け取るときも「退職金」や「年金」として税優遇がある

Q.なぜ制度が変わるの？

A.高齢化が進む中、「できるだけ長く働き、自分で老後資金を準備できるように」という目的で見直されることになりました。

2026～2027年の主な改正内容と施行時期

改正項目	内容	施行時期(見込み)
①掛金上限の引上げ	・ 会社員等の掛金上限が拡大 (例: 2.3万円→6万円台)	2027年1月～
②加入年齢の延長	・ 65歳まで → 70歳未満まで	2027年1月～
③手続きの簡素化	・ 事業主証明書の提出が原則不要 (個人口座からの掛金拠出の場合)	2025年～ 順次対応済
④企業年金との併用整理	・ 企業型DC等との掛金上限ルール見直し	2027年1月～
⑤受取時の税制見直し	・ 退職金との控除計算ルール変更	2026年以降の 受給分から

メリットが大きくなる一方、注意も必要

【メリット】

- ・ 掛金が増えると、その分「所得控除」が増えて節税に！
- ・ 70歳まで加入できることで、長く働く方にもチャンス。
- ・ 手続きが簡単になり、加入のハードルが下がる。

【注意点】

- ・ 企業年金のある方は、掛金の上限が変わるため勤務先に確認を。
- ・ 受取時の税制変更で、退職金との「もらう時期」が重なると控除が減る可能性。
- ・ 制度の詳細は今後発表されるため、金融機関・専門家に最新情報を確認しましょう。

企業・人事担当者の方へ

- ・ 改正後は、60代社員やシニアパートの方も加入対象となる可能性があります。
- ・ 福利厚生として「iDeCo加入サポート」を案内する企業も増えています。
- ・ 制度変更に合わせて、従業員説明会や社内案内資料を準備しておくとう安心です。

～ まとめ ～

- ▶ iDeCo改正は、「長く働く人が利用しやすく」「節税しながら老後資金を増やせる」ようになる前向きな改正です。
- ▶ ただし、退職金との受け取り時期や企業年金の併用ルールには注意が必要です。
- ▶ 今のうちに制度内容を確認し、早めの準備をしておきましょう。

※本記事は2025年11月時点の情報に基づいています。法改正内容によって変更される可能性があります。

VOL.994
(2602-3)



〒541-0054
大阪市中央区南本町
2-6-12
サンマリオンタワー16F
TEL:06-6224-0264
FAX:06-6224-0265
HP: <https://k-s-j.net/>
編集:井村・早川・茅原・石田

社長が入れる
労災保険のことなら

「葛城経営研究会」

詳しくは、
06-6224-0480 まで！

約束を守らなかった息子に
どのように対応するか、とい
う正解のない問いへ向き合
う時、それに必要なものは何
かを考えます。それは約束を
するという行為における「覚
悟」とは何かを子にもわかる
ように教えることよりも、ま
ずはそのときどきの子の「気
持ち」を親が理解し、子に理
解を示すことが大事なので
はないかと思うのです。
仕事も子育ても対話が大事
だと、子を抱
きしめるたび
に肌身を感じ
ます。(森)



2月労務スケジュール

- ・ 3月決算法人の決算及び
申告の準備
- ・ 令和7年分所得税・個人
住民税、個人事業税の確
定申告と納付の準備